

『洞谷記』二種対照(二)

河 合 泰 弘

凡例

一、対照に使用したテキストは、左記の二本である。

古写本：大乗寺本（秘本）一巻一冊 永享四年（一四三二）

筆 石川県金沢市大乗寺所蔵（石川県立美術館委託
保管）

流布本：大乗寺本 一巻一冊 享保三年（一七一八）筆 石
川県金沢市大乗寺所蔵（石川県立美術館委託保管）

一、本文校定に際しては、左記の翻刻資料を参考にした。

古写本：『宗学研究』第一六号（大谷哲夫氏翻刻／昭和四九年）

所収本

流布本：『曹洞宗全書』宗源下（曹洞宗宗務厅／昭和五年）

所収本

『常清大師全集』（大本山總持寺／昭和一二年）所収

『洞谷記』二種対照(二)（河合）

本

『瑩山禪』第八・九巻（山喜房仏書林／平成元・二年）
所収本

なお、本文中の句読点・返点は、原文及び右記の翻刻資料を
参考に筆者において記した。

一、本文对照にあたっては、大乗寺秘本の本文順序を基準とし
て段落を区切り上段に載せ、それに対応する大乗寺流布本の
該当本文を下段に配列した。なお、両本の段落分け・段数は
松田文雄氏の分類に従つた。（『瑩山禪』卷九 四六～五二頁）

一、大乗寺流布本の原本の「永光寺室中の秘録」には元来存在
せず、大乗寺流布本の末尾に「大乗寺室中の秘本」より転写
されている段落は、段落番号を【】で表わした。

一、本文は原本に忠実に再現することにつけめた。また、両本
ともに存する本文中の注記は、繁雑になることを避けるため、

『洞谷記』二種对照(二)(河合)

その位置の右側に番号を付し、各段落の末尾にまとめて記した。

一、流布本については大乗寺本と永光寺本（一巻一冊、石川県羽咋市永光寺所蔵）・駒澤大学本（一巻一冊、駒澤大学図書館所蔵）との対校を行い、字句の異なる場合は、該当箇

所の右側に丸数字を付し、各段落末尾に注として記した。その際、永光寺本は（永）、駒澤大学本は（駒）の略号を用いた。

一、原本における異体字・略体字・古体字等は、特別な場合を除いて当用漢字を用いた。

古写本（大乗寺所蔵「秘本」）	流布本（大乗寺所蔵本）
<p>(55) 元亨元年十二月廿日夜半許、与簡首座、夾山示洛浦、不無截断天下人舌頭、爭教無舌人解語、因緣談次、簡云、露柱同參人、雖聞無說々、不知說無說者何。露柱燈籠、雖常說熾然、知音即得聞、衆生不得聞、為人分欠故、解語欠。予云、露柱燈籠、不無為人分、人分、古今聞彼說話、而得悟人多之。所謂靈雲見桃花悟道、正是聞無說々悟道、一人若聞得、千人万人又得聞。于時簡云、或依師若依桃花得悟、悉依他悟、兀然自發不疑依他得悟人、依他得悟人、尚疑無師自悟人。言兀然自發莫有麼。予云、無師自悟又非無、無師自悟人、不疑依他得悟人、依他得悟人、依他得悟人、尚疑無師自悟人。言了睡時、予夢、有至簡有宗殷、談此因緣。簡云、無舌人正解舌人正解語底人。殷云、無舌人與解語別也。予云、有語底人。殷云、無舌人與解語別也。予云、有</p>	<p>(25) 同十二月廿日夜半許、与簡首座、夾山示洛浦、不無截断天下人舌頭、爭教無舌人解語、因緣談次、簡云、露柱同參人、雖聞無說說、不知說無說者如何。露柱燈籠、雖常說熾然、知音即得聞、衆生不得聞、為人分欠故、解語欠。予云、露柱燈籠、不無為人分、人分、古今聞彼說話、而得悟人多之。所謂靈雲見桃花悟道、正是聞無說說悟道、一人若聞得、千人万人又得聞。于時簡云、或依師若依桃花得悟、悉依他悟、兀然自發無有麼。予云、無師自悟又非無、無師自悟人、不疑依他得悟人、依他得悟人、依他得悟人、尚疑無師自悟人。言了睡時、予夢、有至簡有宗殷、談此因緣。簡云、無舌人正解舌人正解語底人。殷云、無舌人與解語別也。予云、有</p>

無舌人、有解語人、有會解語人。簡云、已會無舌人、即是第一義諦人、若有解語人、會解語人者、第一義有階級也不。予云、第一義中、雖無階級、如眼有三重、有白眼、有黑眼、黑眼中又有瞳、黑眼中又有黑眼、眼雖無兩隻眼、有三重。第一義中得悟人、有三人。子細可會取。為後鑑記。

1 「是」の左脇下に「解、異有り」あり

有解語人。有解悟人、有會解語人。簡云、已會無舌人、即是第一義諦人、若有解語人、會解悟人者、第一義有階級也不。予云、第一義中、雖無階級、如眼有三重、有白眼、有黑眼、黑眼中又有瞳、黑眼中又有黑眼、眼雖無兩隻眼、有三重。第一義中得悟人、有三人。子細可會取。為後鑑記。

1 「何」の下に「異作何別」あり

2 「欠」の下に「異本無⁴」予云、露柱同參人、雖聞無說說、到分欠故、解語欠、四十七字、故今略之」あり

3 「有」の右脇（水は左脇、駒は「人」の下）に「異無四字」あり

4 「是」の下に「異有解」あり

(56) 同廿二日夜、感夢。予在于永平寺、演老侍者一位、代欲上堂、演老自出、又代上堂云、消殘一盞燈、独朗簾箔中、影不出山、將二十年。下座次、予云、和尚在不出山願歟。演云、然。可喜、千万人中、汝獨知我心中。為後鑑記之、誠是且抑愛心。而送一生瑞相也。必須當山終幽棲吉兆也。

(26) 同廿二日夜、感夢。予在于永平寺、演老侍者一位、代欲上堂、演老自出、又代上堂云、消殘一盞燈、独朗簾箔¹、影不出山、將二十年。下座次、予云、和尚在不出山願歟。演云、然。可喜、千万人中、汝獨知我心中。為後鑑記之²、且抑愛心。而送一生瑞相也。必須當山終幽棲吉兆也。

『洞谷記』二種对照(二) (河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

- 1 「箔」の下に「異有^レ中」あり
2 「之」の下に「異有^レ誠是」あり

(57) 同廿二日、予問^レ祖忍、歳去春來、箇中有様如何。

忍曰、無影樹枝、有何時節。忍云、最初奇言。為^レ後証記^レ之。

(58) 元亨二年壬戌正月十四日、願生々年八十三、發心作^レ僧臘次六十四。妻尼心妙、同時作^レ比丘尼、息女心正、孫女淨忍、同發心作^レ尼。喝食家中一族皆發心、奇代事故為^レ山德、故入山人、必發心求道。

(59) 元亨二年一月廿七日夢^{トシヨリ}云、古登新与利、八幡能神乃、
安羅和礼転、我立曾満乃、守登南流加南。

(27) 同日、予問^レ祖忍、歳去春來、箇中有様¹、無影樹枝、有何時節。忍公最初奇言。為^レ後鑑^レ記^レ之。

- 1 「様」の下に「異有^レ如何忍云」

(84) 元亨二年壬戌正月十四日、願生生年八十三、發心作^レ僧臘次六十四。妻尼心妙、同時作^レ比丘尼、息女心正、孫女淨忍、同發心作^レ尼。喝食家中一族皆發心、奇代事故為^レ山德、故入山人、必發心求道。

(29) 元亨^①三年壬戌正月廿七日、夢告曰、古登新与利、八幡能神乃、安羅和礼転、我立曾満乃、守登南流加南^②。

- 1 「三」の右脇に「ニ」あり
① 永駒は「三」を「ニ」を作る
② 駒は「南」を「那」を作る

(60) 同年六月十八日、建^レ勝蓮峰円通院、与^レ当山本主

祖忍大姊。本尊者、予今生悲母、一生頂戴隨身之十一面觀音也。此觀音、昔悲母十八歲時、別離母而不_レ知行方、而七八年憂之間、參₁清水寺觀音、七日日參、當₂六日、於路次中、設₂十一面頭。即發願曰、予尋母在所、而日₂參于清水、祈請之處、得₂尊像頭、因緣令然。若予在_レ緣者、忽施慈悲、令₂遇₂予母。即作₂繼御身、為₂一生頂戴之本尊、祈誓。即次日、母使₂上洛而尋女。次日、清水參詣之路次行遇。此使_レ知母在所、故即往₂仏師所、作₂繼御身、而為₂一生頂戴之本尊。

于_レ然悲母三十七歲、夢₂朝日光暖呑、覺_レ胎而即孕胎。於是、悲母祈₂誓于此本尊₂曰、若此妊子、為₂聖人而為₂大善知識、為₂人天₂可_レ有₂益人₂者、可₂產生平安。不然者、觀音以₂威神力、者、觀音以₂威神力、腹內而可_レ朽失。祈₂誓而每日三千三百三十三拜、百三十三拜、₂讀₂觀音經₂至₂七月、而安安行₂產所₂路而生_レ之際、名₂行生。彼產所者、越前國多禰觀音之敷地也。然後、万事於₂予事、祈₂誓于此尊₂。所謂、成人無難、出家學文、修道發智、乃至嗣法住持、利₂濟人天、悉皆祈₂念于此尊₂。念于此尊₂。剩予若干之時、瞋恚過_レ人如_レ可_レ徒。故悲母又

忍大姊。本尊者、予今生悲母一生頂戴、隨身之十一面觀音也。此觀音、昔悲母十八歲時、別離母而不_レ知行方、而七八年憂之間、清水寺參詣、而令_レ知₂母在所₂祈₂誓、七日日參、當₂六日、於路次、設₂十一面頭。即發願曰、吾尋₂母所在、而日₂參于清水₂處、得₂尊像頭、因緣今然。若我在_レ緣者、忽施慈悲、令₂遇₂我母。然即作₂繼御身、而為₂一生頂戴之本尊₂。

又悲母三十七時、夢₂朝日光暖呑、覺後胎孕₅。悲母祈₂誓于此尊₂云、我懷妊子、為₂聖人₂為₂善知識、而為₂人天₂可_レ有₂益人₂者、令₂產生平安₆。不然者、觀音以₂威神力₂、胎內而可_レ令₂朽失₇。祈₂誓而每日作₂一千三百三十三拜、₂讀₂誦觀音經₂、而至₂七箇月₈、而安安行₂行生₉下。產₁₀處者、越前國多禰觀音堂之敷地也。然而、於₂予事₁₁、万事祈₂誓于此尊₂。所謂、成人無難、出家學文₁₂發智、乃至嗣法住持、利₂濟人天、悉皆祈₂念于此尊₂。剩予若干時₁₃、瞋恚過_レ人如_レ可_レ徒。故悲母又祈₂誓于是尊₂云、

古写本(大乘寺所藏「秘本」)

流布本(大乘寺所藏本)

祈誓于此尊、此僧縱雖利根聰敏、智惠拔群、如レ此如瞋恚增盛者、為人天不可レ有益、以レ加被力、令レ止レ瞋恚。于レ時、予自レ十八冬、發レ道心、十九秋、殊發心而求道。終充レ維那、而寺務拔群、人々悉隨喜。于レ然、有レ人於レ予惡口、予瞋恚增發而已、犯レ大罪、企レ之。時翻悔而思念、予自レ幼年歲、拔群出身、今發心充レ職、所レ望為レ仏法統領、化レ導人天、是大願也。若作レ惡事、此身必可レ閑、自レ今以後、不レ發レ瞋恚、自然慈悲柔軟、而今為レ大善知識。此以後、不レ發レ瞋恚、自然慈悲柔軟、而今為レ大善知識。是併悲母祈念力也。所以、悲母八十七而終焉、以レ此本尊、併悲母祈念之力也。所以、悲母八十七而終焉、以レ此本尊、讓レ与于予。予入レ当山、時、擎レ持于当山、分レ一峰、而名レ勝蓮峰運水峰与栗、生原傍也、建レ一院、号レ円通院、与レ当山本主。即予之生髮臍尾諸共、悲母隨身頂戴、而加レ本尊。祖忍依レ信心無レ、清淨發心、讓レ與畢。安レ觀音之座右底、入レ白鐵筒、而安レ之。為レ來際、為レ當山鎮護、為レ悲母弘誓度レ女之祈禱所、為レ瑩山弘法利生之祈禱所、為レ後鑑記レ之、以為レ円通院之緣起。又此地之瑞相、兼知レ可レ為レ伽藍地⑤。故者、無量庵之妙心、兼知レ可レ為レ伽藍地。其故者、无量庵妙心房、度々聞レ大房、度度大衆諷經音、聞レ之。今之春、為レ円通院引レ地時、

彼僧縱雖利根聰敏、智惠拔群、如レ此瞋恚增盛者、為人天不可レ有益、大悲願以レ加被力、令レ止レ瞋恚、祈レ之。予自レ十八歲冬、發レ道心、十九歲秋、殊發心而求道。充レ維那、而寺務拔群、人人悉隨喜。¹⁴ 然、有レ人予惡口、瞋恚增發、而犯レ大罪、企レ之。時翻悔而思念、予從レ幼歲、拔群出身、今發心充レ職、所レ望仏法統領、化レ導人天、大願也。若作レ惡事、此身可レ閑、自レ今以後、不レ發レ瞋恚、自然慈悲柔軟、而今為レ大善知識。是併悲母祈念力也。所以、悲母八十七歲而終焉、以レ此本尊、讓レ与予。予入レ当山、時、擎持²³、分レ一峰、而建立一院、号レ円通院。勝蓮峰中運水峰与栗、生原境也、讓レ与当山本主。即予之生髮臍尾諸共、悲母隨身頂戴、而加レ本尊。祖忍、依レ信心無レ、清淨發心、讓レ與畢。仍生髮臍尾、共觀音之台座右底、入レ白鐵筒、而安レ之。為レ身、而加レ本尊。仍生髮臍尾、共觀音之台座右底、入レ白鐵筒、而安レ之。為レ尽未來際当山鎮護、為レ悲母弘誓度レ女之祈禱所、為レ瑩山弘法利生之祈禱所、為レ後鑑記レ之、以為レ円通院之緣起。²⁷ 又此地之瑞相、兼知レ可レ為レ伽藍地⑥。故者、無量庵之妙心房、度度大衆諷經音、聞レ之。今之春、為レ円通院引レ地時、

衆諷經声。今春、為円通院引地時、語レ之。兼可寺瑞相

無レ疑。当寺仏殿、与円通院同年、建立之。

1 「参」の右脇下に「詣イニ」有り

語レ之。兼寺瑞相無レ疑。³⁰

1 「在」の下に「異作「在所」」あり（駒はこの注なし）

2 「水」の下に「異有レ祈二請之」（駒は「之」なし）」あり

3 「今」の下に「異作レ令」あり

4 「尊」の下に「異有下祈誓即次日、母使上洛而尋女、次日、清水參詣之路次行遇、此（駒は「此」を「之」に作る）使

知母在所（駒は「在所」を「所在」に作る）、故即往仏師

所、作繼御身、而為一生頂戴之本尊、子也然（駒は「然」

の下に「云々」あり）」あり

5 「孕」の下に「異有於レ此」あり

6 「令」の下に「異作レ可」あり

7 「千」の下に「異作三千」あり

8 「七」の右脇（駒は下に）に「異作九（駒は「九」の下

に「字」あり）」あり

9 「行」の下に「異有下産所路而生レ之際、名行生、彼産所者上」

10 「而」の下に「異作後（駒は「後」の下に「字」あり）」

あり

11 「文」の下に「異有修」あり

12 「年」の下に「異有之」あり（駒はこの注なし）

13 「之」の下に「異有于時」あり

14 「喜」の下に「異有于」あり

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

29 28 「地」 「起」 の下に 「異有レ其」 あり	27 26 25 24 23 22 21 「女」 「心」 「身」 「而」 の下に 「異有名勝蓮峰」 あり	15 「人」 の下に 「異有レ於」 (駒は「於」の下に「字」あり) あり
	19 18 「天」 の下に 「異有レ是」 (駒は「是」の下に「字」あり) あり	16 「口」 の下に 「異有レ予」 (駒は「予」の下に「字」あり) あり
	20 「身」 の下に 「異有レ必」 (駒は「必」の下に「字」あり) あり	17 「而」 の下に 「異有レ已」 (駒は「已」の下に「字」あり) あり
	21 「和」 の下に 「異作レ喫」 あり (駒はこの注なし)	15 「人」 の下に 「異有レ於」 (駒は「於」の下に「字」あり) あり
	22 「念」 の下に 「異有レ之」 あり	16 「口」 の下に 「異有レ予」 (駒は「予」の下に「字」あり) あり
	23 「持」 の下に 「異有レ当山」 あり	17 「而」 の下に 「異有レ已」 (駒は「已」の下に「字」あり) あり
	24 「而」 の下に 「異有名勝蓮峰」 あり	18 「望」 の下に 「異有レ為」 あり
	25 「の下に 「異有名勝蓮峰」 あり	19 「天」 の下に 「異有レ是」 (駒は「是」の下に「字」あり) あり
	26 「の下に 「異有名勝蓮峰」 あり	20 「身」 の下に 「異有レ必」 (駒は「必」の下に「字」あり) あり
	27 「の下に 「異有名勝蓮峰」 あり	21 「和」 の下に 「異作レ喫」 あり (駒はこの注なし)

30 「疑」の下に「異本云（駒は「云」を「曰」に作る）、当

寺仏殿、与円通院、同年建立之」あり

駒は「處」を「所」に作る

駒は「後」を「后」に作る

永は「大」なく、「為」の右脇下に「大イニ」あり

駒は「念」の下に「之」あり

駒は「地」なし

駒は「地」の下に「其」あり

(61) 同年夏始、伊勢国僧、道可上坐、發心入山。作レ僧

受具後、深夜自入レ耳、山中有諷経声。為レ知在所、出レ外静聞レ之、当山艮東谷也、度々聞レ之。

(31) 同年夏始、伊勢國之僧、道可上座、發心而入山、作レ僧受具。或夜自入レ耳、山中有諷経声。為レ知在所、

出レ外静聞、¹當山艮東谷也。²

1 「聞」の下に「異有レ之」あり

2 「也」の下に「異有度々聞レ之」あり

駒は「國」なし

② ① 駒は「聞」の下に「之」あり

(62) 元亨二年壬戌四月三日、庚子申立時、仏殿鍼立。

本願山主忍庵主六合日也、
本願山主忍庵主六合日也、
録物式貫文、
旦那金吾朝定。

(32) 同年四月三日庚申申時、洞谷仏殿鍼立。¹ 仏殿檀那、
主祖忍、六合日。² 緑物者、
式貫文。

1 「申」の右脇に「子イニ」あり（駒はこの注なし）

『洞谷記』二種对照(二) (河合)

古写本（大乘寺所蔵「秘本」）	流布本（大乘寺所蔵本）
(63) 同十八日乙卯午時命時、當旦那滋野氏女六合日、礎居。旦那朝定壹貫文、開山瑩山加壹貫文、与白布一、賜錄物。	(33) 同十八日乙卯午時命時、當檀那滋野氏女六合日、礎石。檀那朝定祿物者一貫文、開山瑩山加一貫文、与白布一、賜祿物。
(64) 同廿六日癸亥、氏女六合日、寅時命時、屋立。吉日富貴日、柱立。 <small>朝定沙汰也。</small>	(34) 同廿六日癸亥、氏女六合日、寅時命時、屋立。吉日富貴日、立 <small>①</small> 柱。 <small>朝定沙汰也。</small>
(65) 同八月八日癸酉、西天祇園精舍供養、東地青竜寺供養、日本貞信公法城寺供養、高野山大塔供養日、以三国精舍供養吉日、置棟木。滋野氏女六合日也。	(35) 同八月八日癸酉、西天祇園精舍供養日、東地青竜寺供養日、本朝貞信公法城寺供養日、高野山大塔供養日、以三国精舍供養吉日、置棟木。滋野氏女六合日也。
(66) 同十六日辛巳八月、大吉、直日、成日、富貴大吉日、胃宿大吉、月曜無火難、太歲對諸神天願日、願成就日也、和合日、天恩日、万事大吉重復日、吉事重疊日、押十吉日上棟。大工善真子息、乙頭小三郎、任左衛門大夫。取幣揃拂後、引薄衣一帖、滋野氏女。又仏殿旦那朝定、引薄衣一帖。又自寺家、引大刀一振著絃袋。次引馬三疋、一	(36) 同十六日辛巳八月、大吉、直日、成日、富貴大吉日、胃宿大吉、月曜無火難、大歲對諸神天 ¹ 願成就日、和合日、天恩 ² 、万事大吉重復日、吉事重疊日、押二十吉日上棟。大工善真子息、乙頭小三郎、任 ^① 左衛門大夫。取 ^レ 幣拂 ^レ 棟後、滋野氏女、引 ^レ 薄衣一帖。仏殿檀那朝定、引 ^レ 薄衣一帖。又自 ^レ 寺家、引 ^レ 大刀一振著絃袋。次引馬三疋、一

疋、置_二白鞍、乙頭引_二鞍置一疋、幸阿代目太郎也。列番匠十三人、各一疋点_二名字、著_レ札列引、棟懸物、用途拾貫文。絹一、細布一段、奴佐絹一、綿一両、麻苧一両、檀紙一帖、膝著絹一、善綱絹二、布八、弓絃布四、土瓶五加提子、棟餅十五枚、加_二兩廊、酒肴二具一具十二合、大肴、大筒荷、寺沙汰。一具大肴一对、大筒一对朝定沙汰。鍛治三人、酒肴各馬一疋、嚮料椀飲料米五石。

同日奉_レ渡_二本尊、供奉次第、礼仏引座畢後引座、碩首座、

一番長燈一对行者役、二番幡一对小僧役、

三番饒鉢二对中臘僧役、四番鼓一对、

五番灑水、六番散花、

七番燒香、八番両班、

九番主人左侍者持_二香合、右侍者持_二五莖花

中央仏輿力者四人荷之、十番幡一对小僧役。

大衆供奉、緇白雲衆、開遶供奉、自_二妙嚴院_一至_二最勝殿。

主人接仏、

先虛空藏安座簡首座、次觀音安座洪首座、

次中尊安座主人、後伝供礼仏。

『洞谷記』二種对照(二)(河合)

疋置_二白鞍、乙頭引_二鞍置一疋、幸阿代目大良也。³列番匠

十三人、各々一疋点_二名字、著_レ札列引、棟懸物、共用途十貫文。⁴絹一疋、細布一段、好佐絹一疋、綿一把、麻苧一

両、檀紙一帖、膝著絹一疋、善綱絹二疋、布八段、弓絃布四段、土瓶五荷、加_二銚子、棟餅十五枚。⁵兩廊酒肴二具、⁶

大肴一对、大筒^④一荷、寺家沙汰。⁶大肴一对、大筒^⑤一对、朝定沙汰。鍛治三人、酒肴各馬一疋、饗料椀飯料米五斛。

同日、奉_レ渡_二本尊。共奉次第、礼仏引座畢後引座、碩首座、

一番長挑燈一对行者役、二番旛子一对小僧役、

三番饒鉢二双中臘役、四番鼓子一对同、

五番灑水小僧役、六番散花同、

七番燒香同、八番両班、

九番主人左侍者持_二香合、右侍者持_二五莖花

中央仏輿力者四人荷也、十番幡一对小僧役。⁶

大衆供奉、緇白雲集開遶共奉、自_二妙嚴院_一至_二最勝殿。次接

仏、

先虛空藏安座簡首座、次觀世音安座洪首座、

次中尊安座主人、安座畢後、転供礼仏。⁷

『洞谷記』二種対照(二)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

次陞座、次諷経。礼仏後、読疏。諷経罷、衆退散。

次陞座、次諷経。礼仏後、⁽⁷⁾読疏。諷経罷、大衆退散。
1 「天」の下に「異有願日」あり
2 「恩」の下に「異有^レ日(駒は「日」の下に「字」あり)」

あり

3 「也」の下に「異本大良作太郎」あり

4 「好」の下に「異有^ニ具」あり

あり

5 「具」の下に「異本有^ニ具十二合」あり

6 「汰」の下に「異有^ニ具」あり

7 「仏」の下に「異転作^レ伝」あり

駒は「任」を「住」に作る

駒は「衛」を「エ」に作る

永駒は「十」を「拾」に作る

永駒は「筒」を「箇」に作り、左脇に「異作^レ箇」あり

永は「筒」を「箇」に作り、左脇に「箇イニ」あり

永は「ニ」の左脇に「イニ」あり
駒は「後」を「后」に作る

(67) 元亨三年癸亥四月八日、以吉日良辰六合日、引始五老峰地、其後有人難云、塔頭所若高^レ寺、子孫不^ニ相

(38) 同四月八日、以吉日良辰六合日、始^レ引^ニ五老峰地^{一〇}。其後有人難曰、塔頭所若高^レ寺、子孫不^ニ相続、如何可^レ有。

統一如何可レ在。時予思惟、當山從最初、一切依夢想告思定。就中、羅漢無障礙、如意仏法可興行。若然者、此塔頭所、為末代可如何。夢中知之トレ之。

予思惟、當山從最初、一切依夢想告^①思定。就中、羅漢弗多羅尊者、卓庵初告云^②、當山万事無障礙、如意仏法可興行、云云。若然者、此塔頭所、為末代²如何。夢中知之トレ之。³

1 「有」の下に「異有レ時(駒は「時」の下に「字」あり)」
あり

2 「代」の下に「異有レ可(駒は「可」の下に「字」あり)」
あり

3 「之」の下に「異有レ即(駒は「即」の下に「字」あり)」
あり

あり

① 永は「告」の左脇に「イニ」あり
② 駒は「云」を「日」に作る

(68) 即同六月四日甲子日寅時、夢予歌詠云、我栖妙葉、^{ワレスメヤル}
那坂野山裳、婦美那羅新、苔乃下帰転、人曾問來。以^レ是、
子孫不可^レ絶、道人相続、來際寺院興行、仏法不可^レ断絶、
知^レ之。為後鑑記^レ之。同五日巳時記^レ之、落字吉徵也。

(40) 同六月四日甲子日寅時、夢予歌詠云、我栖妙冬、^{ワレスメヤル}
那坂野山裳、不美那羅志、苔下^③帰転、人曾問來。以^レ
是子孫不可^レ絶、道人相続、來際寺院興行、仏法不可^レ断
絶、知^レ之。為後鑑記^レ之。同五日巳時記^レ之、落字吉兆^④也。

1 「婦」の右脇に「不イ」あり

1 「下」の下に「異有^レ乃」あり
① 永は「冬」の左脇に「葉イニ」あり

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

(41) 同廿三日、五老峰^{己亥}隅、靈水涌出。覺明禪人^①云、此山誠靈地也、茶是靈木也、自然生^レ水、又高原水、必靈水也。凡此地有^ニ五靈^ニ。一予求^ニ塔頭所^ニ、始見^ニ此平坦地^ニ、是最初靈也。次^ニ見茶樹自然生^ニ、第二靈也。次靈水自然涌出、第三靈也。次^ニ安自筆五部大乘經^ニ、第四靈也。次^ニ安^ニ五老安^ニ五老遺書^ニ、第五靈也。同夜、鑑寺慶道夢見云^ニ、水色生絹囊入^ニ金劍^ニ、而立^ニ置西岸^ニ、左右在^ニ十文字結縛箱^ニ、左右料桶入^ニ白米如^ニ水晶^ニ、在^レ之。

(69) 同六月廿三日、五老峰戊亥隅、靈水涌出。覺明禪人

曰、此山誠靈地也、茶是靈木也、自然生^レ水、又高原水、必靈水也。凡此地有^ニ五靈^ニ。一予求^ニ塔頭所^ニ、始見^ニ此平坦地^ニ、是最初靈也。次^ニ見茶樹自然生^ニ、第二靈也。次靈水自然涌出、第三靈也。次^ニ安自筆五部大乘經^ニ、第四靈也。次^ニ安^ニ五老安^ニ五老遺書^ニ、第五靈也。同夜、鑑寺慶道夢見云^ニ、水色生絹囊入^ニ金劍^ニ、而立^ニ置西岸^ニ、左右在^ニ十文字結縛箱^ニ、左右料桶入^ニ白米如^ニ水晶^ニ、在^レ之。

1 「在」の右脇下に「十イ在^レ之」あり

1 「已」の左脇に「戊イニ」あり
2 「垣」の下に「異有^レ地」あり(駒はこの注なし)

3 「夢」の下に「異有^レ見云」あり

4 「箱」の下に「異作^レ箱(駒は「箱」の下に「字」あり)」

あり

① 駒は「覺明」の左脇に「孤峰」あり
② 駒は「木」を「水」に作る

③ 「左」の上に水は「尚イニ」、團は「尚」あり

(70) 元亨三年癸亥四月八日、伝灯院地引始。

(71) 八月廿二日、鉢立。

(72) 九月十三日、上棟。同廿八日、造畢。

(73) 元亨三年、月次諷経始。

(74) 天童淨和尚、大宋紹定二年己丑七月十七日、逝。日本寬喜元年。今至元亨三年、九十五年也。

永平元和尚、日本建長五年癸丑八月廿八日、逝。今至元亨三年、七十二年也。

永平辨和尚、弘安三年庚辰八月廿四日、逝。今至元亨三年、四十四年也。

大乘介和尚、延慶二年己酉九月十四日、逝。今至元亨三年、十五年也。

(75) 元亨三年癸亥六月廿五日、哲首座立僧入室、伝衣竹

(46) 同廿二日、伝灯院鉢立。

(49) 同年九月十三日、伝灯院上棟。同廿八日造畢。¹

1 この段の左(團は「畢」の下)に「異本云、元亨三年、

月次諷経始」あり

(50) 天童淨和尚、大宋紹定二年己丑七月十七日、逝。日本寬喜元年。今至元亨三年、九十五年也。

永平元和尚、日本建長五年癸丑八月廿八日、逝。今至元亨三年、七十二年也。

永平辨和尚、弘安三年庚辰八月廿四日、逝。今至元亨三年、四十四年也。

大乘介和尚、延慶二年己酉九月十四日、逝。今至元亨三年、十五年也。

(42) 同廿五日、哲首座立僧入室、伝衣竹籠同面授。捧

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

笠同面授。捧伝衣云、永平付法伝衣信、嫡々師資面授來。哲首座相受
哲首座相受頂戴云、庾嶺誰言提不起、而今著得接門開。

(76)

一、洞谷山者、嗣法人人、連續而可住持興行。頗是五老
之遺跡之際、諸山之中、可崇重事、置文委之。

一、山中円通院者、為瑩山今生祖母、之所建立也。
依幼稚養育之恩深、立一院安觀音、為本願主大檀那
祖忍大姉、永年偃息行道之道場。山門住持之門人、為一
大事、加修理興行、可哀愍覆護。是則當山之大恩所也。
敷地画図、并縁起在別紙、祖忍大姉持之。

一、宝應寺者、為瑩山今生悲母惠觀大姉、所建立尼寺
也。明照姉公、依彼姪、補最初房主。暫雖告退、以
重書寄進狀以下田畠等諸寄進狀等、讓与明照姉公者也。
向後之房主職、可為明照計、門徒中可揀器用。明照
以下門徒比丘尼中、可住持興行也。

一、光孝寺者、當國最初之獨住所也。門徒宿老中、可獨住

流布本 (大乘寺所藏本)

法衣曰、永平附法伝衣信、嫡嫡師資面授來。哲首座相受
頂戴云、庾嶺誰言提不起、而今著得接門開。

(52)

山僧遺跡寺寺置文記之

一、洞谷山者、嗣法人人、連續而可住持興行。頗是五老
之遺跡之際、諸山之中、可崇重事、置文委之。

一、山中円通院者、為瑩山今生祖母明智優婆夷、之所
建立也。依幼稚養育之恩深、而立一院安觀音、為
本願主本檀那祖忍大姉、永年偃息行道之道場。山門住
持之門人、為一大事、加修理興行、可哀愍覆護。是
則當山之大恩所也。敷地画図、并縁起在別紙、祖忍持之。
一、加州宝應寺者、為瑩山今生悲母懷觀大姉、所建立
尼寺也。明照姉公、依彼姪、補最初房主。暫雖告退、
以重書寄進狀以下田畠等諸寄進狀等、讓与明照姉公者
也。^①向後之房主職、可為明照計、門徒中可揀器用。明照
以下門徒比丘尼中、可住持興行也。

一、光孝寺者、當國最初之獨住所也。門徒宿老中、可獨住

住偃息。令_二法久住、旦那素意。僧宝勿_レ令_二斷絕矣。今慶道都寺之倚住。文書在洞谷庫。

一、放生寺者、加州第三之僧所、門徒宿老之休息所也。如今祖溪都寺、門徒中揀宿德、可_レ令_二倚住也。於_二寺院、勿_レ令_二破壞顛倒、是本願素意也。文書在洞谷庫。

一、淨住寺者、本願素意、清淨寄進之僧所之間、任_二素意、為_二了閑上座、令_二修練勤行。如今無涯老門徒相承、而可_レ令_二住持興行、是本願。并開闢觀大師并紹瑾、加州第二之遺跡也。素意勿_レ令_二失。

一、大乘寺者、先師開法之加州第一之貴寺也。門徒中、可_二住持_一遺跡也。今暫雖_二不如意僧、止住管領、開山素意、當家興法為_レ望。旦那在_二正理_一時者、門徒中尊宿中、可_二住持興行。是又永平一二三代之靈骨安置所也。門徒中、可_二再興勤行_一寺院也。門派可_レ存_二此旨。

一、總持寺者諸岳山、當國第三之僧所也。旦那雖_レ未_二正信_一、本

院主定賢律師、為_二永代伽藍興隆_一為_二僧所_一、其志不_レ可_レ捨_レ之、門徒中、可_二住持興行_一所也。

右八箇寺者、瑩山修練而門徒令_二相承_一寺々也。永代守_二

偃息。令_二法久住、檀那素意。僧寶勿_レ令_二斷絕矣。如今慶道都寺倚住。文書在洞谷之寺庫。

一、放生寺者、加州第三之僧所、門徒之宿老休息所也。如今祖溪都寺、門徒中揀宿德、可_レ令_二倚住也。於_二寺院、勿_レ令_二破壞顛倒、是本願素意也。文書洞谷庫有_レ之。

一、加州淨住寺者、本願素意、清淨寄進之僧所間、任_二素意、為_二了閑上座、令_二修練勤行。如今無涯老門徒相承、而可_レ令_二住持興行、是本願^③。開闢觀大師并紹瑾、加州第二之遺迹也。素意勿_レ令_二失。

一、大乘寺者、先師開法之加州第一之貴寺也。門徒中、可_二住持_一遺跡也。今暫雖_二不如意僧、止住管領、開山素意、當家興法為_レ望。檀那存_二正理_一時者、門徒中尊宿、可_二住持興行。是又永平一二三代之靈骨安置所也。門徒中、可_二再興勤行_一寺院也。門派可_レ存_二此旨。

一、總持寺者、當國第三之僧所也。檀那雖_レ未_二正信_一、本院主定賢律師、為_二永代伽藍興隆_一為_二僧所_一、其志不_レ可_レ捨_レ之。門徒中、可_二住持興行_一所也。

右八箇寺者、瑩山修練而門徒令_二相承_一寺寺也。永代守_二

『洞谷記』二種对照(二)(河合)

古写本(大乘寺所蔵「秘本」)

門風¹、可^ニ練行修持²之置文、如^レ件。

元亨三年癸亥十月九日

洞谷開山紹瑾

御判

流布本(大乘寺所蔵本)

門扇²、可^ニ練行修持²之置文、如^レ件。

元亨三年癸亥十月九日

洞谷開山紹瑾

御判

1 「願」の下に「異有^レ并²」あり(駒³はこの注なし)

2 「扇」の下に「異作^レ風²」あり(駒³はこの注なし)

① 永³は「也」の右脇に「イニ」あり

② 永³は「練」の右脇に「鍊乎」あり、駒³は「練」を「鍊」

に作る

③ 駒³は「願」の下に「并²」あり

④ 永³は「癸」左脇に「イニ」あり

(77) 諸門人中悉知

住持職人、皆帶^ニ文書、如^ニ淨住總持兩人、若得^ニ如^レ此人、而如^レ補^ニ住持職、雖^レ為^ニ小院、可^レ準^ニ大刹。又退院長老、可^ニ休息^ニ地。然者、光孝放生者、門徒宿老之休息所也。仍文書兩寺、在^ニ洞谷寺庫。嗣法門人相計而、可^レ補^ニ房主職。依^レ人或稱^ニ庵主、或稱^ニ山主、或稱^ニ和尚。已為^ニ嗣法尊宿、而行^ニ布薩上堂、為^ニ緇白^ニ衆、而行^ニ授戒入室、不^レ論^ニ院大小。是為^ニ人天師、是從上仏祖之訓訣也。和尚称不^レ可^レ

(53) 諸門中悉知

住持職人、皆帶^ニ文書、如^ニ淨住總持兩人、若得^ニ如^レ此人、而如^レ補^ニ住持職、雖^レ為^ニ小院、可^レ準^ニ大刹。又退院長老、可^ニ休息^ニ地也。然者、光孝放生者、門徒宿老之休息所也。仍兩寺文書、在^ニ洞谷之寺庫。嗣法門人相計、而可^レ補^ニ房主職。依^レ人、或稱^ニ庵主、或稱^ニ山主、或稱^ニ和尚。已為^ニ嗣法尊宿、而行^ニ布薩上堂、為^ニ緇白^ニ衆¹、行^ニ授戒入室、不^レ論^ニ院大小²。是為^ニ人天師、從上仏祖之訓訣也。和尚称不^レ

猥代レ仏揚レ化。是云住持、是則祖位也。

可レ猥代レ仏揚レ化。是云住持^①、是4仏祖位也。

(78) 明峰和尚置文

加州大乘
能州洞谷 両寺住持職事

右彼住持職者、嗣法小師、並伝戒小師、受業小師、同心談合、而抜レ出嗣法小師之中、其機用之仁、可レ令レ住持者也。

(79) 此外諸寺事、

加州分 願成寺、仲興寺、僕徳寺、崇禪寺、大会寺、西光寺。

能州分 道興寺、惠恩寺、円光寺。

右彼諸寺坊主職者、嗣法小師、並伝戒小師、受業小師、同心談合、而抜レ出其機用之仁、可レ令レ居住者也。子孫固可レ守レ此旨、為ニ永代龜鏡レ記レ之。

觀応元年庚寅三月廿三日 住大乘素哲

御判

(85) 明峰和尚置文

加州大乘
能州洞谷 両寺住持職事

右彼住持職者、嗣法小師、並伝戒小師、受業小師、同心談合、而抜レ出嗣法小師之中、其機用之仁、可レ令レ住持者也。

(86) 此外諸寺事、

加州分 願成寺、仲興寺、僕徳寺^①、崇禪寺、大会寺、西光寺。

能州分 道興寺、慧恩寺^②、円光寺。

右彼諸寺坊主職者、嗣法小師、並伝戒小師、受業小師、同心談合、而抜レ出其機用之仁、可レ令レ居住者也。子孫固可レ守レ此旨、為ニ永代龜鏡レ記レ之。

觀応元年庚丑三月廿三日 住大乘素哲

御判

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

① 永は「僕」を「仏」に作り、右脇に「僕」あり
② 駒は「慧」を「惠」に作る

(80) 能州洞谷山永光寺瑩山和尚語録 侍者 源祖編賀
新旧監寺維那典座浴主。

上堂云、蒼竜退_レ骨作_二雲雨_一、玄豹披_レ霧全_二虎威_一。舉山巨
海悅衆同、塩味調適知浴時。

上堂云、參禪者身心脱落也。身無_二所作_一、心無_二思量_一。不
思量而現、不回互而成。

上堂云、人々本有一坐具地、不受_レ他处分、從来自住久、
休_二歇競求馳走心、始得_二穩坐_一。

四月八日、仏生上堂云、如々仏出生來、海眼自深、岳眉自
高、人々本無_二第二人_一、箇々無_レ非_二至尊_一。所以、尺迦如來
初生時、周_二行十方_一各七步、而一手指_レ天、一手指_レ地云、
天上天下唯我獨尊。如何會_二獨尊底事_一。良久云、人人不_レ
讓_レ他。

結夏小參、賀_二新旧首座_一曰、直得第一頭事、卓立万機前。
藏_レ身則仏祖觀不_レ得、出頭則人悉為_二模範_一。進前退後、

【89】 能州洞谷山永光寺瑩山和尚語録 侍者 源祖編賀
新旧鑑寺維那典座浴主。

上堂云、蒼竜退_レ骨作_二雲雨_一、玄豹披_レ霧全_二虎威_一。舉山巨
海悅衆同、塩味調適知浴時。

上堂云、參禪者身心脱落也。身無_二所作_一、心無_二思量_一。不
思量而現、不回互而成。

上堂云、人々本有一坐具地、不受_レ他处分、從来自住久、
休_二歇競求馳走心、始得_二穩坐_一。

四月八日、仏生上堂云、如々仏出生來、海眼自深、岳眉自
高、人々本無_二第二人_一、箇々無_レ非_二至尊_一。所以、枳迦如來
初生時、周_二行十方_一各七步、而一手指_レ天、一手指_レ地云、
天上天下唯我獨尊。如何會_二獨尊底事_一。良久曰_②、人人不_レ
讓_レ他。

結夏小參、賀_二新旧首座_一曰、直得第一頭事、卓立万機前。
藏_レ身則仏祖觀不_レ得、出頭則人悉為_二模範_一。進前退後、

不レ借レ他力、靈山分二半座、曹谿比二化益。進退首座老僧、如二左手右手。正当与麼時、老僧從前分二半身。記得、世尊言、以二大円覺、為我伽藍、身心安居、平等性智。諸人如何識、取平等性智。人々無レ別、箇々自住。夜深久立。伏惟珍重。

結夏上堂、洞谷雲收、青松綠深、永光水清、明月光鮮。山僧安居、歷年安樂、人々円覺、當衆不昧。仏祖眼睛亞出、沙門全身自彰、世尊一日陞座。良久、文殊白槌云、諦觀法王法、法王法如是。以二弘子打二圓相二云、山僧教下法王法、周与二諸人一安居、無レ欠無七余。

上堂、其坐禪者、大安樂法門、大解脫妙法也。人々以心伝心之心印、箇々以法授法之表準、智愚無レ別、凡聖不レ隔。尽安住自受用三昧、齊二入光明藏三昧、從レ本離二心意識之運轉、更作二念想願之測量、諸人識取麼末也。山僧代レ他、欲二転語、大衆用レ聽麼。良久云、不思量而現、不回互而成。

上堂云、安居而得二十一日、堂中事如何。万機休罷、諸緣放尽、一味蕭條、無異工夫。只如三雲蓋問二石霜、万戸俱

不レ借レ他力、靈山分二半座、曹溪比二化益。進退首座老僧、如二左手右手。正当与麼時、老僧從前分二半身。記得、世尊言、以二大円覺、為我伽藍、身心安居、平等性智。諸人如何識、取平等性智。人人無レ別、個個自住。夜深久立。伏惟珍重。

結夏上堂、洞谷雲收、青松綠深、永光水清、明月光鮮。山僧安居、歷年安樂、人人円覺、當衆不昧。仏祖眼睛亞出、沙門全身自彰、世尊一日陞座。良久、文殊白槌云、諦觀法王法、法王法如是。以二弘子打二圓相二云、山僧教下法王法、周与二諸人一安居、無レ欠無七余。

上堂、其坐禪者、大安樂法門、大解脫妙法也。人人以心伝心之心印、箇箇以法授法之表準、智愚無レ別、凡聖不レ隔。尽安住自受用三昧、齊二入光明藏三昧、從レ本離二心意識之運轉、更作二念想觀之測量、諸人識取麼末也。山僧代レ他、欲二転語、大衆要レ聽麼。良久云、不思量而現、不回互而成。

上堂云、安居而得二十一日、堂中事如何。万機休罷、諸緣放尽、一味蕭條、無異工夫。只如三雲蓋問二石霜、万戸俱

古写本(大乘寺所藏「秘本」)

俱開則不_レ問、万戸俱閉時如何。霜云、堂中事如何。蓋无語。
經半年下語云、無_ミ人接_レ得渠。霜云、道即太殺道、只
道_レ得八成。蓋問云、堂中事如何。霜云、無_ミ人識_レ得渠。
瑾上座則不然、暫問_レ堂事中事如何、無_ミ人借_レ他力。

端午上堂、五月五日天中節、百草頭上生殺新、甘草不_レ知_レ
甜、黃連不_レ弁_レ苦、只箇不崩草、從_レ本離_レ甘酢苦辛鹹淡、
曾非_レ地水火風空識。能有_レ殺_レ人力、故殺_レ仏不_レ令_レ說_レ法、
殺生不_レ令_レ聽_レ法、不_レ說_レ法不_レ聽_レ法時如何。人々從_レ本
非_レ父母所生身。

上堂云、學道先須_レ明_レ出家事。出家者非_レ四大五蘊身、
非_レ三界受生身。所以無_ミ衣法所在、外無_ミ性法所住、內
如明鏡無_レ台、似_レ巨海無_レ涯。縱雖_レ了識分別憎愛受生名
色形現、十二輪轉、如_レ珠自轉自輶、廣劫以來、不_レ受_レ人
瞞、山河大地草木森羅、皆是自己光明。更無_ミ別塵、無_ミ
異法、不_レ見_レ道。萬法是心光、諸緣唯性曉、畢竟如何保任。
周_レ徧十方_レ心、不_レ在_レ一切處。

上堂、諸情皆尽處、一切無為時、汝若惺惺坐、人人悉不_レ疑。

流布本(大乘寺所藏本)

開則不_レ問、万戸俱閉時如何。霜云、堂中事如何。蓋無語。
經半年下語云、無_ミ人接_レ得渠。霜云、道即太殺道、只
道_レ得八成。蓋問云、堂中事如何。霜云、無_ミ人識_レ得渠。
瑾上座則不然、暫問_レ堂中事如何、無_ミ人借_レ他力。

端午上堂、五月五日天中節、百草頭上生殺新、甘草不_レ知_レ
甜、黃連不_レ辨_レ苦。只箇不崩草、從_レ本離_レ甘酢苦辛鹹淡、
曾非_レ地水火風空識。能有_レ殺_レ人力、故殺_レ仏不_レ令_レ說_レ法、
殺生不_レ令_レ聽_レ法、不_レ說_レ法不_レ聽_レ法時如何。人人從_レ本
非_レ父母所生身。

上堂云⁽⁴⁾、學道先須_レ明_レ出家事。出家者非_レ四大五蘊身、
非_レ三界受生身。所以無_ミ衣法所在、外無_ミ性法所住、內
如明鏡無_レ台、似_レ巨海無_レ涯。縱雖_レ了識分別憎愛受生名
色形現、十二輪轉、如_レ珠自轉自輶、廣劫以來、不_レ受_レ人
瞞、山河大地草木森羅、皆是自己光明。更無_ミ別塵、無_ミ
異法、不_レ見_レ道。萬法是心光、諸緣唯性曉、畢竟如何保任。
周_レ徧十方_レ心、不_レ在_レ一切處。

上堂、諸情皆尽處、一切無為時、汝若惺惺坐、人人悉不_レ疑。

此不疑田地、不レ触レ事明知、知所本無レ語、了然唯不レ移。

熾然円覚体、見覺又聞知、一切智清淨、根塵本遠離。上堂

曰、大円鏡智現「成身」、成所作身無等倫、平等智身離造

作、妙觀察智絕思塵。

上堂云、即心即仏、浪自醜斟者、如狂者与鈴、歷劫不得自歇。非心非仏、要強承当、縱使你不能承当、也是非別人。且道、如何履践、得与麼相應去。良久云、虛空誰敢掛絲髮、心上從來無垢塵。

六月一日上堂、叢林依舊、放下坐禪。夫坐禪者、仏祖一大事因緣也。放下万事、休歇諸緣、只管保任自己、真箇令学無為。雖然如是、禪也放下、而教人知自己如怨家。諸人還識取也未。若未識取、山僧換衆欲レ拈出一語、大衆委悉要聽取。即放下払子、斂手良久而下座。

此不疑田地、不レ触レ事明知、知所本無レ語、了然唯不レ移。

熾然円覚体、見覺又聞知、一切智清淨、根塵本遠離。上堂

云⁽⁶⁾、大円鏡智現「成身」、成所作身無等倫、平等智身離造

作、妙觀察智絕思塵。

上堂曰、即心即仏、浪自醜斟者、如狂者与鈴、歷劫不得自歇。非心非仏、要強承当、縱使你不能承当、也是非別人。且道、如何履践、得与麼相應去。良久云、虛空誰敢掛絲髮、心上從來無垢塵。

六月一日上堂、叢林依舊、放下坐禪。夫坐禪者、仏祖一大事因緣也。放下万事、休歇諸緣、只管保任自己、真箇令学無為。雖然如是、禪也放下、而教人知自己如怨家。諸人還識取也未。若未識取、山僧換衆欲レ拈出一語、大衆委悉要聽取。即放下払子、斂手良久而下座。

- ① 駒は「霧」を「露」に作る
- ② 永駒は「日」を「云」に作る
- ③ 永は「要」を「用」に作り、右脇に「要力」あり
- ④ 駒は「云」を「日」に作る
- ⑤ 駒は「如明鏡無台」を「明鏡如無台」に作る

『洞谷記』二種对照(二)(河合)

古写本(大乗寺所蔵「秘本」)

流布本(大乗寺所蔵本)

(81) 洞谷門下僧禄御書云

素哲、予遺跡之僧錄也。喻如_二王道行事、管_二祖意_一永劫是
也。

正中二年乙丑八月一日

永光紹瑾

在判

(79) 洞谷門下僧禄御書曰

⑥ ⑦ 永駒は「云」を「日」に作る
駒は「日」を「云」に作る

素哲、予遺跡之僧錄也。喻如_二王道行事、管_二祖意_一永劫是
也。

正中二年八月一日

永光紹瑾

在判

(続)